

ディプロマポリシー	課題の中から化学に関わる課題を抽出し、それを他分野からの視点を含めて多面的に分析することで合理的な解決策を見だし、社会の持続可能な発展に貢献することができる。多様な化学現象を観察および処理できる実験技術を身に付け、化学物質やプロセス技術もつ危険性や環境への負荷を判断し、的確に行動できるとともに、多くの人々に状況を正確に伝えることができる。課題解決においては、特に環境・生命工学との融合的な視点を保ち、協働しながらグローバルに活動できる能力と意欲、倫理観を身につけて活動できる。	13単位	24単位	28単位	22単位	22単位	109単位								
後期	グローバルテクノロジー特論b 1	微生物学特論 2 バイオエネルギー特論 2	酵素工学特論 2 環境マーケティング特論 2	高分子化学特論 2 分子認識化学特論 2 ハイブリッド材料特論 2	超分子化学特論 2 界面化学特論 2 配位化学特論 2	環境工学研究法b 2 地域環境管理特論 2 生物処理工学特論 2 自然生態系特論 2	環境工学研究法a 2 バイオマテリアル特論 2 バイオメカニクス特論 2 生物プロセス工学特論 2	生命工学研究法b 2 水環境施設特論 2 環境工学研究法a 2 分子生体機能学特論 2 生体物理工学特論 2	●必修科目 50単位 109単位 59単位 2 2 2 2 2 2						
前期	応用数学特論 2 グローバルテクノロジー特論a 1 技術経営特論 2 応用物理学特論 2	材料・デバイス開発実技特論 3 グローバルテクノロジー特論a 1 分析化学特論 2 外国語特論 2	高分子材料特論 2 ●基礎テクノロジーセミナー 2 エネルギー技術特論 2 分析化学特論 2 環境化学特論 2 ●基礎テクノロジーセミナーa 2 研究倫理特論 2	固体化学特論 2 エネルギー技術特論 2 研究倫理特論 2	物質・材料研究特論b 2 無機合成化学特論 2 ファインケミカルズ特論 2 有機化学特論 2	環境工学研究法b 2 地域環境管理特論 2 生物処理工学特論 2 自然生態系特論 2 計画数理特論 2 生物環境物理学特論 2	環境工学研究法a 2 バイオマテリアル特論 2 バイオメカニクス特論 2 生物プロセス工学特論 2 環境計測特論 2 バイオサイクル工学特論 2	生命工学研究法b 2 水環境施設特論 2 環境工学研究法a 2 分子生体機能学特論 2 生体物理工学特論 2 機能性食品学特論 2 ナノメダシン特論 2	生命工学研究法a 2 生体電子工学特論 2	●必修科目 50単位 109単位 59単位 2 2 2 2 2 2					
分野	数理科目 共通選修	学履科目 共通選修	専門選修	分野	物質・材料分野	環境ソリューション分野	生命・農工学・食品分野	109単位							
カリキュラムポリシー	「専門」としての「物質・材料分野」では化学技術の基礎となる知識や方法論を確実に身につけ、化学物質に関わる課題の解決に際する技術者を養成する。特に、「物質・材料研究特論bおよび」において、化学に関わる研究活動を実施するための基本的な考え方や成果を発表するための技術を獲得する。 ①「専門」選修・生命工学専攻の幅広い技術を習得し、それらをもとに研究活動を進めるための科目群を置き、幅広い視点から課題解決を行う技術やツールを身につける。特に、「基礎テクノロジーセミナーaおよび」ならびに「研究倫理特論」において研究活動を進めるに当たっての、さまざまな情報収集および評価法などを修得し、また技術者倫理をはじめとする専攻分野に関わる倫理観を醸成する。 ②「共通選修」には数理科目および学履科目を置き、専門教育・研究活動に必要な工学分野の知識と実践力を培育する。														
アドミッションポリシー	物質およびその変化に関わる基本的な技術を中心としながらも、環境工学・生命工学に属する技術についても理解し、それらを幅広い課題解決に活用できるような教育を行う。その中で、学士課程教育の中で培った人間力豊かな技術者としての能力をさらに高める。 (求める人物像) ① 専攻および応用化学コース博士前期の教育目標を理解し、その実現に対して努力できる人 ② 物質に関わる知識や技術をさらに高めようとする意欲をもつ人 ③ 化学・環境・生命工学専攻が抱える幅広い技術を総合的に活用し、人類が今後直面する多方面にわたる課題に立ち向かう意欲を持つ人 ④ 人間の成長および自己実現をめざす向上心をもって、共同作業の重要性を認識し実行できる人														
ディプロマポリシー	4年以上在学中に所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通して、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。 《工学部》 1) 実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を組み重ねる関心と意欲を持てる。【関心・意欲】[主体的に生涯学習を継続する意欲と関心] 2) 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけそれらを活用できる。【知識・理解・技能】[技術者に求められる文・理・情報系の素養] 3) 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に活用できる。【理解・応用・技能】[専門分野の知識・技術(詳細は各科目DP)] 4) 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】[相互に理解・議論するコミュニケーション能力] 5) 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】[他者と協働による課題解決力] 6) 地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた使命感や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動力がある。【理解・応用・倫理】[社会に対し能動的に貢献する行動力] ◆注:「3」を明確化したものが、各学科のDPとなる 《応用化学科》 応用化学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継続できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。 (A) 人文社会科学や自然科学などの幅広い教養を身につけ、広い視点で化学技術力を発揮できる。【幅広い教養と応用力】 (B) 化学の基礎から応用までを体系的に理解し、多様な化学現象の本質を説明できる。【化学の専門知識の修得力】 (C) 化学の実験や演習により修得した問題解決能力をもとに、社会の要求や課題に対して他者と協働して取り組むことができる。【他者との協働性と課題解決能力】 (D) 持続的な社会の維持・発展に向けて、地球環境に配慮した化学技術について考え、化学技術者としての使命感・倫理観と実践力がある。【化学技術者としての使命感・倫理観と実践力】 (E) 化学技術の基礎を継承して学習し、化学物質や化学プロセスが潜在的にもつ危険性や環境への負荷を認識し、これを予防するための手段を考え、適切に対処することができる。【継続的な学修力とケムカルハザード・リスクへの対応力】 (F) 化学の専門知識と技術力をともに、自らの考えを論理的に表現し、他者との相互理解のもとで議論することができる。【化学の専門知識を基盤としたコミュニケーション能力】 (G) 情報技術を活用して、自らの意見や成果を発信できる。【情報技術を活用した発信力】														
分野別到達目標	グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文的教養をもとに、思考・判断力と、意欲・協働性・コミュニケーション能力を身につけ、心身の健康を維持増進する方策を備えている。	工学的観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力として、数学・物理や他の自然科学に関する基礎的知識を理解・応用できるとともに、深い人間性を備えた社会の発展に寄与する思考・判断力がある。	数学や他の自然科学関連のより確かな知識を理解・応用できるとともに、深い人間性を備えた社会の発展に寄与する思考・判断力がある。	グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力や、工学的観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力を、より実践的な活動環境で発揮できる。	化学の基礎から応用までを体系的に理解し、多様な化学現象の本質を説明できる。化学の実験や演習により修得した問題解決能力をもとに、社会の要求や課題に対して他者と協働して取り組むことができる。化学技術の基礎を継承して学習し、化学物質や化学プロセスが潜在的にもつ危険性や環境への負荷を認識し、これを予防するための手段を考え、適切に対処することができる。化学の専門知識と技術力をともに、自らの考えを論理的に表現し、他者との相互理解のもとで議論することができる。情報技術を活用して、自らの意見や成果を発信できる。	化学技術の基礎を継承して学習し、化学物質や化学プロセスが潜在的にもつ危険性や環境への負荷を認識し、これを予防するための手段を考え、適切に対処することができる。化学技術の専門知識と技術力をともに、自らの考えを論理的に表現し、他者との相互理解のもとで議論することができる。情報技術を活用して、自らの意見や成果を発信できる。	化学の基礎から応用までを体系的に理解し、多様な化学現象の本質を説明できる。創成材料化学分野の専門科目を継承して学習して材料創成やエネルギー関連化学における化学技術の基礎力を身につけることで、持続的な社会の維持・発展に向けて、地球環境に配慮した化学技術について考え、化学技術者としての使命感や倫理観をもって行動することができる。	化学の基礎から応用までを体系的に理解し、多様な化学現象の本質を説明できる。環境生命化学分野の専門科目を継承して学習して環境・生命・健康・食品関連化学における化学技術の基礎力を身につけることで、持続的な社会の維持・発展に向けて、地球環境に配慮した化学技術について考え、化学技術者としての使命感や倫理観をもって行動することができる。	卒業に必要な単位数 124単位						
記号	-	-	-	32単位	21単位	20単位	20単位	93単位							
卒業	卒業研究								0単位						
後期	(国際研究セミナー) -								0単位						
前期	化学安全衛生管理(集中) 1 国際研究セミナー 2								3単位						
後期	● 応用化学実験D 2 国際インターンシップ(集中) -								4単位						
前期	● 化学工学II 2 分子分光学 2 固体化学 2 高分子物性 2 有機工業化学 2 生活化学 2 有機立体化学 2 生命有機化学 2 分子構造解析II 2 電気化学 2 有機化学IV 2 基礎高分子科学 2 環境計測 2 資源化学 2 化学英語 2 応用化学探求 2 有機合成化学 2 無機合成化学 2 分析化学II 2 分子構造解析I 2 危険物取扱法 2 錯体・有機金属 2 物性化学 2								22単位						
後期	● 有機化学III 2								52単位						
前期	● 有機化学II 2 ● 物理化学II 2 ● 基礎化学演習c 1								30単位						
後期	● 物理化学I 2 ● 無機化学I 2 ● 有機化学I 2 ● 化学概論b 2 ● 化学概論a 2								12単位						
前期	● 応用化学実験C 2 ● 有機化学III 2 ● 応用化学演習c 1 ● 有機化学II 2 ● 物理化学II 2 ● 基礎化学演習c 1 ● 物理化学I 2 ● 無機化学I 2 ● 有機化学I 2 ● 化学概論b 2 ● 化学概論a 2								12単位						
後期	● 有機化学III 2 ● 有機化学II 2 ● 物理化学II 2 ● 基礎化学演習c 1 ● 物理化学I 2 ● 無機化学I 2 ● 有機化学I 2 ● 化学概論b 2 ● 化学概論a 2								7単位						
前期	● 有機化学III 2 ● 有機化学II 2 ● 物理化学II 2 ● 基礎化学演習c 1 ● 物理化学I 2 ● 無機化学I 2 ● 有機化学I 2 ● 化学概論b 2 ● 化学概論a 2								14単位						
後期	● 有機化学III 2 ● 有機化学II 2 ● 物理化学II 2 ● 基礎化学演習c 1 ● 物理化学I 2 ● 無機化学I 2 ● 有機化学I 2 ● 化学概論b 2 ● 化学概論a 2								7単位						
前期	● 有機化学III 2 ● 有機化学II 2 ● 物理化学II 2 ● 基礎化学演習c 1 ● 物理化学I 2 ● 無機化学I 2 ● 有機化学I 2 ● 化学概論b 2 ● 化学概論a 2								7単位						
分野	キャリア形成の基礎	工学の基礎	数理科学と教育	その他選修	分野	基礎科目	総合化学系科目	創成材料化学系科目	環境生命化学系科目	14単位					
カリキュラムポリシー	《工学部カリキュラム・ポリシー》 工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えたい人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目を選定し、科目の理解を体系的に身に付ける。科目の理解を体系的に身に付ける。科目の理解を体系的に身に付ける。 1) 人文科学、自然科学、情報技術、経営、知的財産・産出物に関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。 2) 継続した英語教育によって、英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。 3) 必修・選択(選択必修を含む)科目によって、専門分野の広範な知識を体系的に身につける。特に重要な科目については、履修機会を徹底して保証する。 4) 実験・実習・探求演習(Project Based Learning, PBL)の科目によって、自発的・継続的に学修する能力、理論的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働への意欲を養う。 5) 技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。 6) 学士課程教育の集大成とする卒業研究によって、論文をまとめる論理的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者として必要な能力を養う。 ◆注:「3」「4」「5」「6」を明確化したものが、各学科のDPとなる				H) 卒業研究によって、学修した基礎学力を未知の課題解決に導く応用展開力を養うとともに、論文をまとめる論理的思考力、プレゼンテーション能力、およびコミュニケーション能力を養う。 C) 必修および総合化学分野の選択科目によって、化学物質の取り扱いに関する知識や技術を身につけ、化学物質の有する機能・有用性を理解し、内包している危険性を認識できる能力を養う。 A) 必修講義科目によって、化学技術に関する基礎知識と思考法および方法論を理解する能力を養う。 B) 実験や演習(PBL)科目によって、化学技術者としての基礎学力と実践力を体系的に身につけ、様々な課題に対して積極的に挑戦し、他者と協働して解決できる能力を養う。 D) 総合化学分野の選択科目によって、化学分野で必要となる情報収集能力や一般社会に発信する能力を養う。 E) 創成材料化学および環境生命化学分野の選択科目によって、持続的な社会を実現するために必要な地球環境に配慮した化学技術に関する教養ならびに化学技術者としての使命感や倫理観を養う。 F) 創成材料化学分野の選択科目によって、新エネルギーを創出し生活を豊かにする新しい材料を設計・開発する基礎技術に関する教養ならびに思考力を養う。 G) 環境生命化学分野の選択科目によって、環境・生命・健康および食品が化学技術と深く関わっていることを理解し、新しい技術・製品を創出するために必要な応用展開力を養う。					年間履修上限単位数 44単位					
アドミッションポリシー	応用化学科は、「化学」をはじめとする自然科学の基礎知識や実験技術を修得することにより、化学系技術あるいは研究能力を身に付けることを目標としています。特に、豊かな社会を築くために、「化学」にかかわる課題を主体的に発見・解決することができ、グローバルに活躍できる能力と倫理観を持つ人材を養成します。 (求める人物像) (1)「化学」をはじめとする自然科学に対して幅広い興味や好奇心を持っている人 (2)「実験や観察」が好きで、新しいものや「材料」に関心を持ち、熱心に取り組める人 (3)自ら学ぶ意欲を持ち、チャレンジ精神旺盛でイニシアチブに溢れる人 (4)化学の知識をはじめとし、コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身に付け、将来、工学の分野で国際的に活躍できる技術者や研究者をめざそうとする人														

大学院博士前期課程

学部

ディプロマポリシー	<ul style="list-style-type: none"> 課題の中から化学に関する諸点を抽出し、それを他分野からの視点を含めて多面的に分析することで合理的な解決策を見出し、社会の持続可能な発展に貢献することができる。 多様な化学現象を観察および処理できる実験技術を身につけ、化学物質やプロセス技術がもつ危険性や環境への負荷を判断し、的確に行動できるとともに、多くの人々に状況を正確に伝えることができる。 課題解決においては、特に環境・生命工学との統合的な視点を保ち、協働しながらグローバルに活動できる能力と意欲、倫理観を身につけ活動できる。 															
相当単位数合計	13単位		24単位		28単位		22単位		22単位		109単位					
M2 MI	後期		後期		後期		後期		後期		50単位					
M2 MI	前期		前期		前期		前期		前期		59単位					
分野	数理科目		学際科目		分野		物質・材料分野		環境ソリューション分野		生命・医工・食品分野					
カリキュラムポリシー	<ul style="list-style-type: none"> 「専門」としての「物質・材料分野」では化学技術の基礎となる知識や方法を確実に身につけ、化学物質が関わる諸課題の解決に携わるための技術を高度化する。特に、「物質・材料研究特論aおよびb」において、化学に関する研究活動を実施するための基本的な考え方や成果を発信するための技術を獲得する。 「専門横断」においては、化学・環境・生命工学専攻の幅広い技術を理解し、それらをもとに研究活動を進めるための科目を置き、幅広い視点から課題解決を行う技術やツールを身につける。特に、「基礎テクノロジーセミナーaおよびb」ならびに「研究倫理特論」においては研究活動を進めるに当たっての、さまざまな情報収集および評価法などを修得し、また技術者倫理をはじめとする専攻分野に関する倫理観を醸成する。 「共通横断」には数理科目および実科目を置き、専門教育・研究活動に必要な工学分野の知識と英語力を増進する。 															
アドミッションポリシー	<p>物質およびその変化に関わる基本的な技術を中心としながらも、環境工学・生命工学に属する技術についても理解し、それらを幅広い課題解決に活用できるような教育を行う。その中でも、学士課程教育の中で培った人間力豊かな技術者としての能力をさらに高めていく。</p> <p>（求める人物像）</p> <ul style="list-style-type: none"> 専攻および応用化学コース博士前期の教育目標を理解し、その実現に対して努力できる人 物質に関する知識や技術をさらに高めようとする意欲をもつ人 化学・環境・生命工学専攻が抱える幅広い技術を総合的に活用し、人類が今後直面する多方面にわたる課題に立ち向かう意欲を持った人 人間の成長および自己実現をめざす向上心をもち、共同作業の重要性を認識し実行できる人 															
ディプロマポリシー	<p>4年以上在学中に所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通して、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。</p> <p>＜工学部＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学習活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。【関心・意欲】[主体的に生涯学習を継続する意欲と関心] 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけそれを活用できる。【知識・理解・技能】[技術者に求められる文・理・情報系の素養] 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれを実践的に適用できる。【理解・応用】[専門分野の知識・技術(詳細は学科DP)] 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】[相互に理解し議論するコミュニケーション能力] 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】[他者との協働による課題解決力] 地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。【理解・応用・倫理】[社会に対し能動的に貢献する行動力] <p>◆注：(3)を明確化したものが、各学科のDPとなる</p> <p>＜応用化学科＞</p> <p>応用化学科では、工学部ディプロマポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるような、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。</p> <p>(A) 人文社会科学や自然科学などの幅広い教養を身につけ、広い視点で化学技術力を発揮できる。【幅広い教養と応用力】</p> <p>(B) 化学の基礎から応用までを体系的に理解し、多様な化学現象の本質を説明できる。【化学の専門知識の習得力】</p> <p>(C) 化学の実験や演習により修得した問題解決能力をもとに、社会の要求や課題に対して他者と協働して取り組むことができる。【他者との協働性と課題解決能力】</p> <p>(D) 持続的な社会の維持・発展に向けて、地球環境に配慮した化学技術について考え、化学技術者としての使命感や倫理観をもつ行動ができる。【化学の専門知識と技術力】</p> <p>(E) 化学技術の基礎を継承して学習し、化学物質や化学プロセスが潜在的にもつ危険性や環境への負荷を認識し、これらを予防するための手段を考え、適切に対処することができる。【継続的な学際力とケミカルハザード・リスクへの対応力】</p> <p>(F) 化学の専門知識と技術力をもとに、自らの考えを論理的に表現し、他者との相互理解のもとで議論することができる。【化学の専門知識を基盤としたコミュニケーション能力】</p> <p>(G) 情報技術を活用して、自らの意見や成果を発信できる。【情報技術を活用した発信力】</p>															
分野別到達目標	<p>グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文的教養にもとづく思考・判断力と、言語の基礎的知識を活用した円滑なコミュニケーション能力を発揮できるとともに、心身の健康を維持増進する方策を備えている。</p>		<p>工学の観点から社会を積極的に発展させる基礎的素養・能力として、数学・物理や他の自然科学関連の基本的知識を理解・応用し、自然環境との共生を念頭にいた思考・判断ができるとともに、実践的に他者と協働するなかで専門分野における学習意欲を増進する。</p>		<p>数学や他の自然科学関連のより総合的な知識を理解・応用できるとともに、深い人間性を備えた社会の発展に寄与する思考・判断ができる。</p>		<p>グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力や、工学の観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力を、より実践的な活動環境で発揮できる。</p>		<p>化学の基礎から応用までを体系的に理解し、多様な化学現象の本質を説明できる。化学の実験や演習により修得した問題解決能力をもとに、社会の要求や課題に対して他者と協働して取り組むことができる。化学技術の基礎を継承して学習し、化学物質や化学プロセスが潜在的にもつ危険性や環境への負荷を認識し、これらを予防するための手段を考え、適切に対処することができる。化学の専門知識と技術力をもとに、自らの考えを論理的に表現し、他者との相互理解のもとで議論することができる。情報技術を活用して、自らの意見や成果を発信できる。</p>		<p>化学の基礎から応用までを体系的に理解し、多様な化学現象の本質を説明できる。創成材料化学分野の専門科目を継続して学習して材料創成やエネルギー関連化学における化学技術の基礎力を身につけることで、持続的な社会の維持・発展に向けて、地球環境に配慮した化学技術について考え、化学技術者としての使命感や倫理観をもって行動することができる。</p>					
相当単位数合計	-		-		-		35単位		20単位		20単位		20単位		99単位	
進修	-		-		-		-		-		-		-		-	
2 & 4	前期・後期		前期・後期		前期・後期		前期・後期		前期・後期		前期・後期		前期・後期		4単位	
1	前期・後期		前期・後期		前期・後期		前期・後期		前期・後期		前期・後期		前期・後期		4単位	
分野	キャリア形成の基礎		工学の基礎		数理科目と教育		その他連携		基礎科目		総合化学		創成材料化学		環境生命化学	
カリキュラムポリシー	<p>＜工学部カリキュラム・ポリシー＞</p> <p>工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開発し、学習者が主体的に学修できる科目を選定し、科目間の連携を高めた体系的カリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 人文科学、自然科学、情報技術、経営、知的財産および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。 継続して英語教育によって、英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。 必修・選択(選択必修を含む)科目によって、専門分野の広範な知識を体系的に身につける。特に重要な科目については、履修機会を徹底して保証する。 実験・実習・探究演習(Project Based Learning, PBL)の科目によって、自発的・継続的に学習する能力、理論的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働への意識を養う。 技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。 学士課程教育の質を高める卒業研究によって、論文をまとめる論理的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者として必要な能力を養う。 <p>◆注：(3) (4) (5) (6)を明確化したものが、各学科のDPとなる</p>															
アドミッションポリシー	<p>応用化学科は、「化学」をはじめとする自然科学の基礎知識や実験技術を修得することにより、化学系技術あるいは研究能力を身につけることを目標としています。特に、豊かな社会を築くために、「化学」にかかわる課題を主体的に発見、解決することができ、グローバルに活躍できる能力と倫理観を持つ人材を養成します。</p> <p>（求める人物像）</p> <ol style="list-style-type: none"> 「化学」をはじめとする自然科学に対して幅広い興味や好奇心を持っている人 「実験や観察が好きで、新しいもの」や「材料」ならびに「物質」をつくり出すことに熱中できる人 自ら学ぶ意欲を持ち、チャレンジ精神旺盛でバイタリティーに溢れる人 化学の知識をはじめとし、コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につけて、将来、工学の分野で国際的に活躍できる技術者や研究者をめざそうとする人 															
カリキュラムポリシー	<p>H) 卒業研究によって、学修した基礎学力を未知の課題解決に導く応用展開力を養うとともに、論文をまとめる論理的思考力、プレゼンテーション能力、およびコミュニケーション能力を養う。</p> <p>C) 基幹および総合化学分野の選択科目によって、化学物質の取り扱いに関する知識や技術を身につけ、化学物質の有する機能・有用性を理解し、内包している危険性を認識できる能力を養う。</p> <p>A) 必修講義科目によって、化学技術に関する基礎知識と思考法および方法を理解する能力を養う。</p> <p>B) 実験や演習(PBL)科目によって、化学技術者としての基礎学力と実践力を体系的に身につけ、様々な課題に対して積極的に挑戦し、他者と協働して解決できる能力を養う。</p> <p>D) 総合化学分野の選択科目によって、化学分野で必要となる信頼できる情報を収集する能力や一般社会に発信する能力を養う。</p> <p>E) 創成材料化学および環境生命化学分野の選択科目によって、持続的な社会を実現するために必要な地球環境に配慮した化学技術に関する教養ならびに化学技術者としての使命感や倫理観を養う。</p> <p>F) 創成材料化学分野の選択科目によって、新エネルギーを創出し生活を豊かにする新しい材料を設計・開発する基盤技術に関する教養ならびに思考能力を養う。</p> <p>G) 環境生命化学分野の選択科目によって、環境、生命、健康および食品が化学技術と深く関わっていることを理解し、新しい技術・製品を創出するために必要な応用展開力を養う。</p>															
アドミッションポリシー	<p>年間履修上限単位数 48単位</p>															

